

# 株式会社三井住友銀行 (2018 年グリーンボンド)

契約の種類： アニュアルレビュー

日付： 2022 年 6 月 10 日

担当者：

Kosuke Kanematsu, kosuke.kanematsu@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2277

Marie Toyama, marie.toyama@sustainalytics.com, (+81) 3 4510 7394

## はじめに

2018 年 12 月、株式会社三井住友銀行（以下、「SMBC」）は再生可能エネルギーに関連するプロジェクトへのファイナンス及び／又はリファイナンスを目的とするグリーンボンドを発行し（4.5 年債 227.8 百万米ドル、4.5 年債 83.2 百万豪ドル、以下「2018 年グリーンボンド」）、その調達資金を 2022 年 3 月 31 日時点で合計 11 件の再生可能エネルギーに係るプロジェクトに充当しました。2022 年 5 月、SMBC はサステイナリティクスにグリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトが三井住友フィナンシャル・グループ／三井住友銀行グリーンボンドフレームワーク 2018（以下、「フレームワーク」）で設定された資金使途のクライテリアやレポーティングの指標に合致しているかについて評価を委託しました。本レビューは、2021 年 5 月に行ったサステイナリティクスによる SMBC のグリーンボンドに対するレビューに続く、4 回目のレビューとなります<sup>1</sup>。

## 評価基準

サステイナリティクスは、以下の要件について、2022 年 3 月 31 日時点で調達資金の充当を受けたプロジェクトを評価しました。

1. フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対するインパクト指標に関する報告

充当を受けた調達資金の使途のカテゴリーに対する適格クライテリア及び関連するインパクト指標を表 1 に示します。

表 1：調達資金の使途、適格クライテリア及びインパクト指標

調達資金の使途	適格クライテリア	インパクト指標
再生可能エネルギー	太陽光、風力、地熱、バイオマス（持続可能な原料又は廃棄物に限る）、及び小規模水力（発電容量が25MW 以下）の再生可能エネルギーの発電又は送電施設の開発、建設、及び運営事業。	• CO <sub>2</sub> 排出量（t 換算）

## 発行体の責任

SMBC は、プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

<sup>1</sup> サステイナリティクスによる SMBC の 2018 年グリーンボンドの過去のアニュアルレビューはこちらよりご覧頂けます：  
アニュアルレビュー（2021 年 5 月） [https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/sumitomo-mitsui-banking-corporation-green-bond-2018-annual-review-\(2021\)-japanese.pdf?sfvrsn=7682e99a\\_1](https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/sumitomo-mitsui-banking-corporation-green-bond-2018-annual-review-(2021)-japanese.pdf?sfvrsn=7682e99a_1)  
アニュアルレビュー（2020 年 7 月） [https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/sumitomo-mitsui-banking-corporation-green-bond-2018-annual-review\\_japanese.pdf?sfvrsn=5ead1f4f\\_3](https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/sumitomo-mitsui-banking-corporation-green-bond-2018-annual-review_japanese.pdf?sfvrsn=5ead1f4f_3)  
アニュアルレビュー（2019 年 5 月） [https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/sumitomo-mitsui-banking-corporation-green-bond-2018-annual-review-\(2019\)-japanese.pdf?sfvrsn=7670b942\\_1](https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/sumitomo-mitsui-banking-corporation-green-bond-2018-annual-review-(2019)-japanese.pdf?sfvrsn=7670b942_1)

## 独立性と品質管理

投資家に環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、SMBC のグリーンボンドによる調達資金の用途を検証しました。本契約の一環として、同行のフレームワークとの適合性の確認のため、SMBC の従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、調査にあたって、対象プロジェクトに関して SMBC から提示された情報と事実  
に依拠しています。SMBC が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査  
結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、  
審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds  
Review Committee）が監督を行いました。

## 結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果<sup>2</sup>、すべての重要な側面において、SMBC のグリーンボンドによる  
調達資金の充当を受けたプロジェクトが、フレームワークで規定された調達資金の用途及びレポーティン  
グクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。SMBC はサステナリティクスに  
対し、2021 年 5 月にグリーンボンドの調達資金が全額充当されたことを開示したものの、調達資金の充  
当に更新があった為、2022 年 5 月に再度レビューを行いました。SMBC はサステナリティクスに対し、  
グリーンボンドの調達資金がグリーンボンドフレームワークの適格クライテリアに沿って、再生可能エネル  
ギープロジェクトに再充当され、2022 年 3 月 31 日時点で充当が完了したことを確認しています。

## 調査結果の詳細

表 2：調査結果の詳細

適格クライテリア	調査手順	調査結果	特定された過失 または例外
資金用途クライテ リア	2022 年 3 月 31 日時点でグリーンボ ンドによる調達資金を充当されたプ ロジェクトを対象に、フレームワ ーク及び上の表 1 に示されている資金 用途クライテリアとの適合性を検 証。	審査したすべてのプ ロジェクトは資金使 途クライテリアに適 合していました。	該当なし
レポーティングクラ イテリア	2022 年 3 月 31 日時点でグリーンボ ンドによる調達資金を充当されたプ ロジェクトを対象に、プロジェクト によるインパクトがフレームワーク 及び上の表 1 に示されているインパ クト指標と適合する形で報告された かを検証。報告されたインパクト指 標の一覧は参考資料 1 を参照。	審査したすべてのプ ロジェクトにおい て、フレームワー クで設定された各資金 用途クライテリアに 対するインパクト指 標が報告されていま した。	該当なし

<sup>2</sup> サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

## 参考資料

### 参考資料 1：インパクト・レポートと調達資金の充当状況

プロジェクト カテゴリー	サブ カテゴリー	プロジェ クト数	インパクト指標 <sup>3</sup>		融資残高 (百万米ドル) <sup>4</sup>
			CO <sub>2</sub> 排出削減量 の合計 (t-CO <sub>2</sub> /年) <sup>5</sup>	CO <sub>2</sub> 排出削減量 の合計 の内、SMBC に 帰属するもの (t-CO <sub>2</sub> /年) <sup>6</sup>	
再生可能 エネルギー	太陽光発電	5	234,127	65,029	
再生可能 エネルギー	風力発電	5	955,928	200,165	
再生可能 エネルギー	バイオマス 発電 <sup>7</sup>	1	280,977	107,232	
合計		11	1,471,032	372,427	350

調達資金の未充当額合計：	0
グリーンボンド発行による調達資金の手取り金合計 <sup>8</sup> ：	290

<sup>3</sup> SMBC によるインパクトレポートは、こちらよりご覧頂けます：<https://www.smfg.co.jp/sustainability/materiality/environment/procurement/>

<sup>4</sup> 融資残高は、百万米ドル未満を四捨五入して表示しています。2022年3月31日時点の為替レートにて米ドル換算した値。

<sup>5</sup> 推定される年間グリーンインパクト（CO<sub>2</sub> 排出削減量）は、各種公的データを使用して日本総合研究所（JRI）が算出。

<sup>6</sup> 各プロジェクトにおける SMBC の出資比率に基づいて算出。

<sup>7</sup> SMBC は、バイオマス発電のプロジェクトのエネルギー源が持続可能な原料及び廃棄物に限定されていたことを約束しました。

<sup>8</sup> 二つのグリーンボンド発行による調達資金の手取り金 227.8 百万米ドルと 83.2 百万豪ドル（米ドル換算した値）の合計額。

## 免責事項

© Sustainalytics 2022 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステイナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステイナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時時点のサステイナリティクスの意見を反映しています。サステイナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、<http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers> をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

英語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先されるものとします。

## サステイナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステイナリティクスは、モーニングスター・カンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、評価及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。ESG 及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる、数百に及ぶ世界の主要な資産運用会社や年金基金を支援しています。また、多国籍企業や金融機関、各国政府を含む世界の主要な発行体に、グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティボンドのフレームワークに対する信頼性の高いセカンドパーティ・オピニオンを提供しています。2020 年には、Climate Bonds Initiative により、3 年連続で「気候ボンドのレビューにおける最大の認証機関」に選ばれたほか、Environmental Finance 誌により、2 年連続で「最大の外部レビュー機関」に認定されました。詳しくは、[www.sustainalytics.com](http://www.sustainalytics.com) をご参照ください。

